

平成28年11月3日、 新潟市北区郷土博物館グランドオープン

新潟市北区郷土博物館の前身である豊栄町博物館は昭和43年、庁舎分館2階に開館し、昭和56年にこの地に移転新築し、常設展示のテーマを「福島潟と人々の暮らし」として「潟の自然や潟端の人々の暮らし」を紹介してきました。

その後、平成10年に郷土の書家 弦巻松蔭の作品を中心とした「書聖 弦巻松蔭の世界」に変更し、そしてこのたび、「阿賀北の大地と人々の暮らし」というテーマで新しく生まれ変わりました。平成27年5月に暫定オープンした後、常設展示を児童・生徒等がわかりやすく学べるように『学習ノート』を作成しました。さらに平成28年度は市民ガイド養成講座を開催し、市民ボランティアによる常設展示の解説を開始することができました。

北区の歴史・文化を北区民が共有し、北区の発展につなげられる博物館としての整備が終了したことから、市民が大勢参加する「博物館まつり」においてグランドオープン記念式典を開催しました。

新潟市北区郷土博物館長 頓所洋一



リニューアルした常設展示風景



グランドオープン記念式典（挨拶する飯野晋新潟市北区長）



市民ガイド誕生！頓所洋一館長の紹介後、デビューした市民ガイドの皆さん（写真奥）



式典の後で行われた市民ガイドによる展示解説

みる人とモノ(展示資料)をつなぐ案内人「市民ガイド」が誕生しました！



解説実習をする受講生たち（市民ガイド養成講座9/24）



デビューを果たし、見学者に展示を説明する市民ガイドたち



博物館からの呼びかけに応えた16人が、養成講座で学び練習を重ね、11月3日、14人が展示を構成するテーマを9人で受け持って、テーマに沿った案内と解説を行いました。

「市民ガイド」は、デビューから3月末までに16回、延べ270人の見学者に解説を行いました。現在もスキルアップをめざして研修中です。

（活動についての詳細は、p.4からの「平成28年度のあゆみ」をご覧ください。）

学習ノートを用いた普及活動を開始しました！

皆さんが博物館や美術館を訪れるのは、会期を区切って開催する企画展示を見に行く時が多いと思いますが、常設展示こそ、実は各館が皆さんにご紹介したい内容です。新潟市北区郷土博物館であれば、北区の5千年の歴史や文化のことを知りたい誰でも、いつでも調べ、学べるようになっています。

当館では「阿賀北の大地と人々の暮らし」というテーマのもと、北区の考古・歴史・民俗・芸術の分野を紹介しています。広くはない常設展示室ですが、内容は盛りだくさんです。どのコーナーも開館以来、当館で収集し、保存している実物の資料を展示しています。資料をじっくりと眺めていると、写真では伝わらない、さまざまな情報や魅力を発信してくれます。

このたび、この常設展示をより分かりやすく、そして楽しんでいただくために『学習ノート』を作成しました。タイトルは少し堅苦しい感じですが、小中学生の教科書を参考に、「誰でも分かりやすく」を目標に作成しました。テーマごとの記述内容を厳選し、文字も大きく読みやすくしました。展示を見れば答えが分かるクイズも付いています。



子ども達に北区を知ってもらうきっかけとするため、学習ノートは区内の小中学校に配布しました。また、ふるさと学習で来館の際は、クイズの一部を活用しながら授業を進めています。

常設展示室に常備していますので、見学の際にご活用ください。学習ノートで北区の5千年の歴史や文化とその魅力を再発見してみませんか（B5判40ページ。当館にて1冊200円で頒布）。

（曾部珠世）

※北区役所だより（H28.8.21号）に掲載した「ふるさと自然と文化」欄に執筆したコラムをもとに編集しました。